

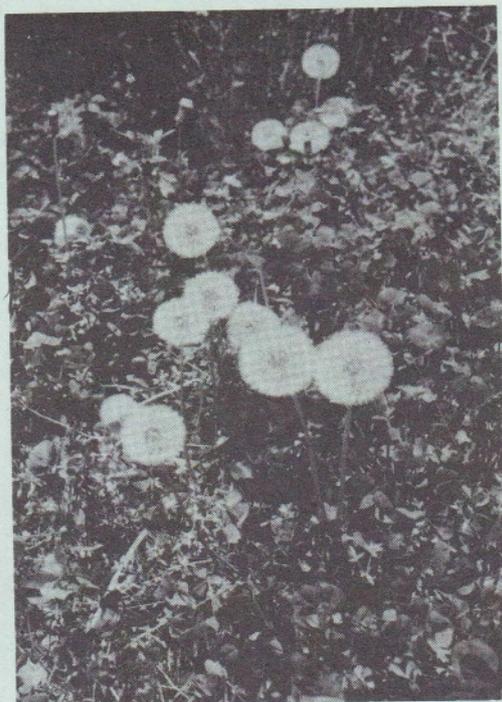
日本GAP山形支部報

ユニバーサル
UNIVERSAL メッセージ
MESSAGE

24

ユニバーサル メッセージ 24

★幸せな楽しい想念が強力……………	清水 正	1
★アダムスキー哲学の生かし方……………	久保田 八郎	2
★質疑応答……………	久保田 八郎	7
★大通り……………	笠原 弘可	11
★送念に応えた飛行体……………	遠藤 茂	12
★支部大会を前に円盤目撃……………	柴田 文子	14
★おしらせ、編集後記……………		15



幸せな楽しい想念が強力

清水 正



先月行なわれた松山支部大会で、久保田先生はある方から聞かされた話として宇宙には三つの法則があることを話されました。その内容は難しいものではなく明快であってわかりやすいものです。

GAP活動にもそれは当てはまります。①物事は繰返えす。——スペース・プログラムはイエスの時代から見ても二千年を数え、何世代にも渡って進められてきました。大宇宙の何処かで、こうした活動は繰返えされ、親が子を導くように常に上方への道が限りなく開けています。②同じ質の物は集まる傾向にある。——最もわかりやすいのが「類は類をもって集まる」です。GAPに集う人はUFO問題に興味を持ち、宇宙哲学に感銘を受けた人がほとんどですから同質と言えます。③物事はだいたい相対的な性質でもって出来ている。——宇宙には吸引と反発の法則があります。円盤などはこの原理を応用しています。GAP活動もこの法則に沿っている面があります。宇宙哲学を学ぶのに対して、今度はさらにそれを発展させ吐出すことも相対的です。いわば「想念もそうです。ある想念を受けて変換して放ちます。」

GAP活動は、より活発に對外活動へと向かうようになったということがUFOの書店倒しに始まり、最近のUFO写真展などで示めされます。Uコンにはその題名にふさわしいコンタクト記事が多く載るようになってきました。宇宙的フーリングがあふれて、スペース・ブラザーが身近に感じられます。さて、GAPはさらに発展して素晴らしい仕事を成し遂げて行くに違いありません。しかし、それはGAPを支援する私たちの日常生活での地道な宇宙哲学の応用による所が重要な支えとなつていきます。地球人として生まれ育つてきた過程で、難儀な思いをしながらもアダムスキーの著書に触れ助けられた人は大勢います。私はそれに感謝しつつ時々アダムスキーの本を読んでいます。

最近、「UFO問題の真相」を読み返えしてみました。大変重要な内要ばかりで、高いフーリングに日頃忘れていたリラックスについて考えさせられました。仕事、対人関係等でいろいろ心配したりしているのに気が付きます。わけのわからない恐怖に覆われている。それは緊張と言つていいのでしょうか。次に書く内容は「UFO問題の真相」に載せてあるものですが、改めてみなさんに読んでいただくのもよろしいかと思つています。それは、金星における病氣と健康について述べたものです。「金星の人々は心や肉体の病氣というものを知らない。これは地球人の性格上の差別感すなわち好き嫌いや何かの裁きなどによって生じるような緊張を起さないからである」。この中では、裁きによって緊張が起ること、が述べてあります。御存知のように、緊張はテレパシー能力の発現を妨けています。そして差別感の好き嫌いは、四つの感覚器官が勝手な判断をしていること、すなわち、人間の心を作り上げているこの四つの感覚器官がテレパシーの発現に重要なかわりを持つていることがわかります。ようするに、四つの感覚器官の作

用によって、自分と外界のものは別物であると思ひ込んでしまつていゝのではなないでしょうか。アダムスキー氏の口グセの注告に「人生は気楽な態度で生きるべきだ」というのがあります。

「UFO問題の真相」118Pには次のようなことが書いてありました。「われわれが自分自身をよく調べて、自分の想念とそれが自分や周囲の人々に与える影響などを観察して、余暇をつくり出しては肉体のリラクゼーションに努力するようにすれば……それは忍耐と頑張りを意味するのだが、その努力をなす人に対する報いは喜ばしいものになるだろう。」

しかし警告しておきたいことがある。われわれは強い決意によってリラクゼーションがやれるようになるのではない。強い決意は心身をゆつたりさせるよりもむしろ引き締めることになるのだ。リラクゼーションは幸せな楽しさのなかに見出しされる。幸せな楽しさこそ人間を開放してくれるからだ……われわれが精神的にリラックスすることを身につけたとき、われわれも彼ら（スペース・ピープル）の想念に対してもっと感受力が強くなるだろう。緊張した心というのは自分の想念以外のいかなる想念をもあまり感受できないのである。」

久保田先生はGAPの仕事をやつていゝる時が楽しくてしようがないと言います。GAPを長く続けて来たならば、この楽しさがなかったならば出来なかつたこと、でしょう。そしてこの想念から発せられるパワーは限りなく強力に思ひます。

アダムスキー哲学の 生かし方

久保田 八郎

この記事は、昭和六十年十月二十日に山形県米沢市で行なわれました、第六回山形・仙台合同支部大会における久保田先生によりまず講演「アダムスキー哲学の生かし方」を文章化したものです。

このたびの講演では、宇宙の意識についての説明を自然治療力で話されて、これまでより一層アダムスキー哲学の理解に役立つものと思います。そして、コンタクト時代にふさわしいブラザーが身近に感じられる内容になっています。

編者
(掲載許可済)

米沢へ参りましたのは、今回で二度目なんです、大変静かな落ち着いた町でありまして、非常に温和な土地柄を感じます。それからこちらの山形県、宮城県方面のGAP会員の方々は大変真面目な真剣な方ばかりでありまして、心から感謝しております。

GAP活動の正しさの証明

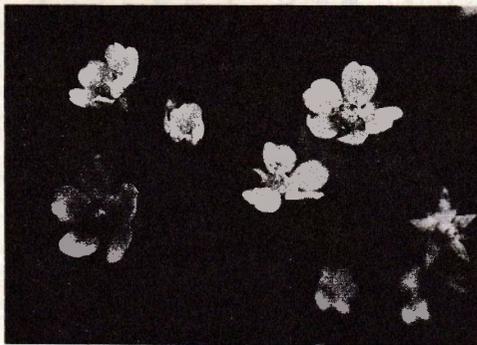
GAP活動が絶対に正しかったということの一つの証明になるものがあります。この前の九月二十二日に東京銀座ガスホールで総会をやったんですが、私のやりましたつたない講演の前に遠藤君が講演をやりましたね。これは、アダムスキーが金星人からもらった例の金星文字を解読して、そうして円盤や母船に用いられている推進原理を説明して画期的なエンジンを開発しようという訳で、今遠藤君が大研究をやっているんですが、その中間報告的な講演が総会で行われました。その遠藤君の大研究がすごいものです。あれは、私の見る所では、一種の永久モーターであって、永久モーターでありながら、しかもある原理によって、そのモーターの中心部に重力場の中心が出来て地球と同じように引力を持つ訳です。引力というのは磁石にもある事は小学

生でも知っていますが、磁石の引力というのは、鉄のような金属だけを引き寄せただけで、人間の手を磁石のそばへもっていても引っ張られませんか。こんな有機質ではダメなんです。無機質の物でないダメですが、円盤とか母船のような別な惑星から来た宇宙船は地球と同じような万有引力を持っている訳です。何でも引っ張り寄せるといふこの重力場を持たせないとダメなんです。重力場を持たせる事によって、それが地球の重力場と釣り合いを保って結局無重量状態になる訳です。

遠藤君はなかなか慎重でして、私にもあまり言わないんですが、もし遠藤君がそれを作りまして、それが重力場を持つようになったならば、空間に手で持ちあげて手を離したらそこでボカッと止まるはずなんです。無重量ですから地球に引っ張られない。そしてちょっと押してやれば慣性の法則によってスーッと空間を移動するはずなんです。それほどの無重量になれば

ごくわずかな推力でもって、光速に近いスピードで飛ぶというのが円盤の原理であるアダムスキーが全集第二巻の中で言っています。だから研究家が物質そのものを反物質的なものにして地球に反発させて浮かびあがらせようという研究をやっているようですが、そんなもんじゃないですね。

その画期的な大発明を今遠藤君がやりつつあるところでして、これが完成したならばおそらく世界で誰もまだやったことのない大発明になって、ノーベル賞を一つ二つでなくとれるほどの大発見になるでしょう。ただし、南アフリカのバンデンバーグはそれを開発して誘拐されましたね。行方不明になってしまいました。そういう例にかんがみて遠藤君が誘拐されちゃ大変ですから、極力慎重にして、すぐに急いで発表するとうような事はまずやらないでしょうね。当分は極秘にして、そうして適切な判断力によってひそかにそれを応用出来るような何



らかの処置を取るようになると思いません。もし、それが軍事力に應用されたら大変です。ですから実際もうGAP活動に対する正しさというものの証明は、松山事件、その前の高松事件、それともう一つは遠藤君の大研究ですね。この三つになる訳です。ですから日本GAPというものを単なる猟奇趣味的な人々の集りみたいなUFOの研究グループだというようなものじゃないんでして、非常に重要な要素を帯びてきたということが言えますので、私たちも真剣にやらなくちゃいけないという事をこのころ適切に感じる訳です。

したがって結局私たち一人一人がみんな宇宙的フィードバックをもった宇宙的な人間に成長するという事が大変重要なんです。今日は「アダムスキー哲学の生かし方」という題になっておりますのでそういう事につきましてお話ししようと思

います。

宇宙の意識が導いた

私自身の例をあげますと、ご承知のように七月五日に私、左足を骨折したんです。骨折といいますが、すねの大骨を折った訳じゃなくて、足の甲が（手で示しながら）こうありまして中に五本ほど小さい骨があるのですが、その一番外側が折れただけです。それから大した事はないんですが、やっぱり骨折ですから一応病院へ行ってもらった訳です。それはまあいいんですが、このニュースが電撃のごとくGAPの内部に伝わったと見えて「久保田ともあるうものが骨折するとは一体何事か」、「あれはハッターだったのか」というふうに思った方があるかもしれないんですが、実はあれはハッターじゃないんです。なぜかと言いますと、あれは骨折する事によって私はずっと大きな災難を逃れる事が出来たのです。これをク小難をもって大難を逃れるクと言います。

現地です。特にアフリカ大陸のエジプトのルクソールという所に行きますと、これはもう40度を越えるようなものすごい暑さですから、そんな所へ行ったらばぶっ倒れてしまい、今頃はもうエジプトの砂漠の中に私の骨が埋められて、あそこ小さな墓標が建てられて、もうこれでGAP活動も何もなくなってしまう、この大会も全然出来ないような状態になっていかもしれないというような状態でした。

それで私ほど落ちかと言いますと今年の旅行はあんまり気乗りはしなかったんです。そこで私の内部の意識が「宇宙の意識」というものはみんなあるんですけど——私を導いてくれました、「今年は何も。家で静養しておれ」という訳で、七月五日に意識が私を導いたと思うのですが、秋葉原の駅前へ出掛けたんですが、駅前広場の少し浅くなった穴ほこみみたいな所がありまして、そこへ左足を突っ込んで、それで骨折を起こさせて、やあやあといううちに私はずっと動けなくなったというふうな状態になり、それが私を静養させるきっかけになったと思うんです。そのために体の調子が非常に良くなりました。総会にも無事出る事が出来た訳なんです。

「これで良くなるんだ」
信念と希望を持とう

ですから何か災難があったように思われても決して失望する必要はないと思います。それはたぶん内部の意識のはから

いによって今後またさらに良くなるためのきっかけかもしれないですね。よく引き合いに出すんですが、プロレスラーのジャイアント馬場さんですね、あの方が昔巨人軍の投手であった事は誰も知って居るんですが、ある時野球の合宿所に泊まっていたときに、風呂へ入ろうと思っ

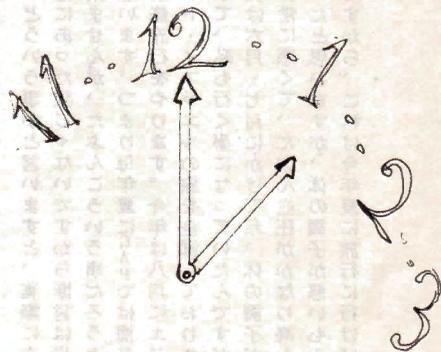
て風呂場で石鹸のヌルヌルで足を滑らせてひっくりかえり、肩をひどく打って痛めてしまった。投手は肩を痛めたらもうダメですから、普通の人もなろうとヤケになるかあるいは非常に失望してしまいかもしれませんが、しかしあれだけの方ですから、それでもって野球生活を縮めて、今度はプロレスラーになろうと決心したのですが、それが良かったんですね。世界的な大選手になった訳です。

こういうわけで、何が幸いなるかわかりませんが、少々災難でくじけたり失望したりしてはダメですね。「これで良くなるんだ」という大きな信念と希望を持つ必要があります。私が骨折いたしましたのは七月五日の秋葉原の駅へ出て広場を歩いている時です。それはなぜかと言いますと、その日印刷所に頼んだ印刷物がありまして、それをどうしても取りに行かなくなっちゃった訳です。ところが足をケガした穴ほこみというのは非常に深い穴かというところじゃないんです。ほんの浅い穴かというところじゃないんです。後からたびたびあそこへ出掛けたときにそこを見ますのに、こんな所でなぜ骨折したのかと思って自分不思議になる位です。普通の人だったら捻挫もやらない所です。なぜそこで足が

折れたのか不思議でしようがないです。ところが不思議なのはそれだけじゃないんです。だいたい骨というのは一ヶ月でくっつくそうです。しかし一ヶ月で足の骨がくっついたら、もうそれでまともに歩けるようになるかと言いますと、そうじゃないんです。特に足の場合です。足の甲の骨が折れたらこれは非常にやわこしいんだそうでして、二ヶ月位足を使いませんから、骨はくっついてても足の裏がなえてしましまして、まともに歩けないんです。骨がくっついててもピッコをひいて歩くようになりません。人間の足というのは考えてみますと、歩くのはどういうふうにして歩くかといえますと、まず地面に足のかかとのほうを先に着けてそれからずーっと足を動かして先のあたりでひょいと力を入れて蹴るようにして前に前進する訳です。ところが足の甲の先の方に限って力が入らない。全然力が入らないんです。たつた二ヶ月足を使わなかつたばかりに……で、病院の先生によりますと、完全にピッコを引かないで治るまでに十月一杯かかるだろうということでした。

ミラクルワードで奇跡が起きた

そこで私は九月二十二日に総会がありますので、総会のステージでピッコひいて出たんじゃみつともないですから、なんとかして急速に直そうとしまして、九月十一日の夜に猛烈にミラクルワードを唱えて「治る、治る」という言葉を三時間位唱えたんです。それから治って元気



良く歩いているイメージを描いたですね。これは、夜寝るときにベットの上におおむけになって唱え、たんですが、そういう場合は唱え方がありまして、置時計を枕元に置いてカチカチという音に合わせてリズムカルに「治る、治る」というふうに唱えますと、いつまでも唱えられれます。それを三時間位続けて、さすがに唱え疲れてそのうち眠りましたましたけど、ね。そうしましたら、あくる日起きた時、私はあんまり気づかなかつたんですが、用事があつて外へ出ることがあつたんですから、草履をはいたままで外へ歩いて出ましたら、なんともなしにピッコをひかないで歩けるんです。左足が全く正常になつたんです！ こういう事は医学上ちょっとありえないことのようにです。ああいう場合は急速に日に日に良くなるというもんじゃなくて、当分何十日もピッコをひいて歩いてそのうちいつの間にか自然に治つて来るというような状態が普通のようなですが、それが完全に治つたんですから、まさにこれは奇跡ですね。

それ以来なんともないんです。

ですから、九月二十二日の総会には全くまともに私は出席出来ました。十月いつばいどころか九月の中旬までに完全に治つた訳です。そういう訳でして、ミラクルワードを唱えるということ、それからイメージを描くイメージ法は奇跡を起こす一番の原動力になりますから、皆さん方も何か望ましい物事があればそれを一つ応用されるといいでしょう。病氣治しだけじゃないです。なんでもいいますからね。

それでこのミラクルワードを唱えて自分の望ましい物事を実現させるといふことは、エゴの現れだと言つて批判する人があるそうですが、とんでもないことです。人間は自分の望ましい物事を実現させようという自由がある。そしてそれを表現させる偉大な力を持つているのです。そういう事をエゴだと言つていたら、何も出来ませんよ。学校へ入つて勉強して、それから職業に就こうという望みを誰も持ちますが、これもみんなエゴの現れだということになれば学校へ入れなくなりません。エゴというのは、人のことを考えないで自分だけが良いことをしようというのがエゴです。それからもう一つ私が骨折で感じたことは、最初にレントゲン撮りました時、骨が離れてこんなふうになつて居る訳です。そしてとび出ているのです。外側の骨がグツと山になつてとび出ている訳ですね。これがひとりごとくつくつかないかと思つていたんですが、看護婦さんがギブスをはめてくれる時に聞いてみましたら、これはひとり

にくつつきますよと、事もなげに言う訳です。

自然治癒力は宇宙の意識の現れ

ギブスが治すんじゃないですからね。ギブスというのはあれは足の甲を動かしかちや良くないですから、し字型に固定しておくために石膏でもって固めてしまつて、これが治すんじゃないんです。むしろん病院の先生が何か接着剤を使つて骨をくっつけてくれる訳でもなんでもないんです。しかしひとりごとく骨がグーッといつの間にかくつついて、一ヶ月たつたら完全にくつついていました。これは実に不思議です。人間のどんな科学をもつてしても、接着剤がどんなに進歩してもすぐその場でくつつけることは出来ませんが、それがほうといてひとりごとく骨同志がくつつくといふのは、明らかに骨の切断面の細胞群がお互いに相手を求め合つて居る訳です。求め合つていて、そうしてくつつくといふこととして居る訳です。明らかに細胞は生き物です。これは、人間の知恵や力でもつても到底及ばないことです。で、細胞群を生き物のようにくつつかせる原動力である英知といえますか、そんな物が全身に満ちて居る訳です。全身にあるから全身のどこの骨を折つても自然にくつつきます。この英知またはパワーをアダムスキーは「宇宙の意識」と言つて居る訳です。これを普通は自然治癒力という訳です。この自然治癒力が実は宇宙の意識だということをはつきりわかります。病氣

してみりゃはつきりわかるんです。骨折ばかりじゃなく、風邪をひいても何日か布団をひつかぶって寝てりゃ自然に治りますからね。いっときは熱が出て鼻水が出てどうしようもない状態でも自然に治るんです。これはやっぱり内部の宇宙の意識が、人体を完全にさせよう、健康状態にさせようとして働きかけている現れでありまして、この自然治療力イコール宇宙の意識だということに気がつかないという手はないんです。ところが、一般の人はそこまで考えないですね。病気が自然に治るといふことは皆知っていますけれど、それは自然に治るんだという程度しか考えていない。まことに残念なことです。内部にすごい宇宙のパワーがあるんだということまで考えようとしな。まあそういうふうな人間の内部には明らかに宇宙的なパワーまたは英知がありますから、そのことをはつきりと認識することが大切です。

センスマインドと自然治療力との一体化

その宇宙の意識というものは人体ばかりじゃなく、あらゆるものを造り上げています。無生物をも。例えばここに台があります。これは原子の塊です。そして原子、分子を存在せしめた英知またはパワーががやっぱり中にありまして、そうしてこういうふうな物を造り上げていく訳ですから、宇宙の意識というのはこの無生物の中にもあるはずですよ。ただし無生物には人間のような自由意志を与えられてはいません。これ自体が物を言ったり動きだしたりすることはしないでくださいね。でもこれは宇宙の意識の現れだということになるんですが、一般人はそのように気がつかないで、目で見えるものや耳で聞かせるものなど、表面的なものしか知覚できないんです。ところがその内部にはものすごい英知、人体でいえば自然治療力が含まれていますから、その世界に気がついて、その世界にのめり込みましょう。宇宙の意識の世界にのめり込むんです。

のめり込むといいますがね、これまたちょっと説明がむずかしいんですが、宗教的な表現になりますけれど、この現象の世界の中に神の世界というものがあるわけです。神といえますと、宗教的になるもんで、あんまりこの言葉を使いたくないんですが他に言い方がないですから……。その神の世界の中に自分が入り込んでしまふんです。というのは、そのフィーリングを……。そういう感覚です。ね。こりゃちょっと難しいですがね。口で言うのは簡単ですがなかなか難しいんです。

起こってきます。それは自分のセンスマインドというものを、いわば自然治療力の方向にもっていったって、自然治療力と一体化させるわけですから、自分の運命が歪められるはずはないんです。

人を裁くことを完全にやめたとき

そしてその神の世界に入り込みますとね、まあ神という言葉はあんまり使いたくないんですが、どうもしようがないんですが……。テレパシクなフィーリングが確す起こってくるはずですよ。それはなぜかと言いますと、その神の世界に入り込んでしまつたらもう他人を裁く必要がなくなつてきますから、従ってテレパシーの本当の能力が出てくるというわけです。他人裁くというのは、これはセンスマインドが自分勝手にひとつの価値基準を持っていて、それ他人をあてはめようとしていることです。そういう自分だけの自分勝手な価値基準を持っていたらダメなんです。とかく人の噂をしては、あの人は良い人間だ悪い人間だとか言つて裁きますが、どうもそういうことはいわば現象のマインドの世界によることであつて、そういうことをやっていたらダメですよ。ですから、この間の総会でもお話ししましたように、ある会員の人が他人を裁くことをやめた時にテレパシー能力が出てきたということです。そのテレパシー能力はどんな程度かと言いますと、ただ何となく印象がわき起こつて来るというふうなものじゃなくて、他人の想念がまるで電話の受話器をあてて相手の声を聞くように頭の中で声が響いて来るんだそうです。まあだいたいスペースビーブルは皆その程度の力があるらしいんですがね。

だいたいテレパシーの能力はそこまで行かないと本物じゃないというので、さうですね。なかなか難しいですが、しかし一人の人がアダムスキーの「テレパシー開発法」や「生命の科学」などを読んで勉強して、そうして人を裁くことを完全にやめた時にその能力が出て来たと言ふんですから、我々も同じ人間ですから出来ないことはないはずなんです。出来ないのは、そういうことをやらないからです。人を裁くということをやらないから。やらない実践をやらないから能力が出て来ないと思うんです。で、本当にそういうすごい能力を開発した人は、ペラペラしゃべらないですね。もし、そういうことをしゃべりますと、一般地球人はそんな能力がないですから、かえって気味悪るがって除け者にするでしょうね。例えば今の遠藤君はオーラが見える特種な能力の持ち主です。したがってオーラによって他人の現在の精神の状態が皆わかるようですね。でも遠藤君はめつたに言わないですね。これが偉いところですよ。もし、遠藤君が人を見るたびに、あんたのオーラは良よとか悪いよとか言おうもんなら、かえって遠藤君は嫌われる結果になるかもしれない。あんなの来てくれないうがいいとか言つて皆よけるようにするでしょうね。だから本当の能力のある人は黙っているということなんです。他にもGAP会員の方の中にテレパシー能

力を相当に開発している人が何人かいます。が言わないですね。そこで、GAPをやめていった人たちがGAPを攻撃する材料として、GAPはああしてテレパシーの開発練習などやっているけれど、誰もテレパシーの力なんか出てきやしないじゃないか、久保田だってそうじゃないか、骨折するじゃないかということを書いて軽蔑したりする人もあるようですが、これは美情を全く知らない人です。と書いて私が人の想念が声になって聞こえるほどテレパシー能力があるという訳じゃないですよ。若干はありますが、時々声が聞こえることもあるんですが、しかし、いつでも志向性を持たせて、誰の想念でもちょうど電話で聞こえるようになりたいたいなあと思っても、なかなかそこまでいけません。でもまあ一生懸命練習をやっていますね。あるいは透視力にしてもらおうですね。速藤君は透視力もあるんですが、やっぱりめったに言わないですね。私も時々透視の現象が起こる事もありますからね、まあ、それは時々という程度であって、やっぱり志向性を持たせて遠方にいるだれそれが今家の中で何をやってるか、ちょっとのぞいてみようかということ、いつでものぞいて見れるかというところ、そういう訳にはいけません。だいたい私がそんな能力を開発しても私は言いませんよ。他人の私生活を窺からのぞいて見るような調子で透視して、その事をペラペラしゃべれば相手はいっぺんに嫌うでしょうね。

スペースビープルは
正体を現さない

だいたい地球上に住んでおられるスペースビープルというのは、たぶんそのすごいテレパシーや透視力を持ちながらも絶対にそんなことはおくびにも出さないで、知らん顔して地球人になりきって、ごく普通の生活や仕事をやっておられると思います。ちょうどあの円盤に乗った日本人少年の中にあつたように、あの円盤に乗っていた方々はもう人間そのものであつたというふうに言っておられますね。とにかく一般地球人の中に混じって住んでいるスペースビープルというのは、人間そのものもいところで、日本人そのものになりきって適当な名前を使って、周囲の人は全く気がつかないで、やあ誰々さん誰々さんと親しく呼び掛けて、同じ職場で働いているというふうな状態だろうと思います。それはそうでしょうね、地球人というのは別な惑星の方々から見れば恐ろしい地獄のような世界ですから……。

ですから、スペースビープルは地球に住んでおられるながら、絶対に自分の正体を現さない正体を示さない。それは、やはり地球というものを非常に警戒しておられるせいだと思えます。だからこれは良い意味での警戒であつて、地球人を憎んでいる訳じゃないでしょう。憎んでいるならだいたい地球を救済するために危険をおかして来る訳はないですからね。警戒というのは、むざむざ自分が殺される

必要はないですから、そういう意味で警戒しておられるのだらうと思えます。

全宇宙の平和……

それで、九月二十二日に総会をやりましたが、これは大盛況でございまして、出席なさいました方々に厚く感謝しているんですが、その総会のちよつと前頃、中旬すぎのある日、私はもうすでに足は治っていますから、何処へも行ける状態でしたんで、ある場所としか言いようがないんですが、ある場所でブラザーにお会したんです。その方がしょっぱなに私に質問して来られました、こういうふうにおっしゃったんです。

「あなたは全宇宙の平和を望んでいますか？」

これは大ショックでした。私はせいぜい地球の平和くらいしか考えていなかったもんですから、全宇宙の平和なんてそんなことは今まで考えたこともない。だいたい宇宙の広さなんてわかりませんからね。これは大ショックでした。「もちろん望んでいます」と一応答えたんですが、後から考えて、こりやまた心にもないことを言ったなと思つて大いに反省しました。全宇宙はどこまで広がりがあるのか知りませんが、無数の惑星がおそらくあるでしょう。そして無数の人間が住んでいるでしょう。その全宇宙の平和を望むというふうな雄大なフィーリングを起こすのが本当の宇宙的フィーリングだという事になるようです。ですから或種の宗教団体は「世界が平和でありま

すように」という標識をあつちこつち建てています。もちろん地球の平和を望まないよりは望んだほうがはるかに良いのですが、地球なんてものは宇宙のほんのケシつぶほどの存在でもないですから、その地球だけの平和を望んでいるんじゃない、これは本当に宇宙的じゃないということでしょうね。

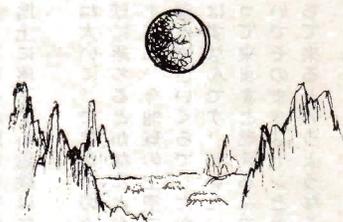
真実だけを追求しなさい

続いて言われたことは、「真実だけを追求しなさい」ということです。真実のみということは、アダムスキー問題が真実そのものであるから、このアダムスキー問題だけをやっておれという意味にもとれますね。まあそういうふうになりました、とにかくアダムスキーの宇宙的な哲学、これはもう絶対ににまちがいない哲学であるということは今のテレパシー開発の実際の例によつてわかるんですが、これも絶えず自分で、そのように意識の世界にのめり込んで、そうしてその意識の目でもってものを見るのです。何百キロ先までも見えるはずなんです。あるいは意識の耳で聞く。いわば望遠マイクです。意識の耳は望遠マイク。遠い所にいる人が話して合っている事もハッキリ聞けるというふうな、そういうフィーリングをもつて生きようとする生き方ですね。これは日常生活でも全く必要だと思つておられます、しだいにそれがだんだん出て来るはずなんです。

それからもう一つ重要なのは、テレパ

シー開発やあるいは透視力の開発で、やはりあのミラクルワードを唱えたりイメージを描いたりして、自分がすでにすごいテレパシーの能力を開発したり透視力を開発して、それを自由に駆使して人を助けているような人間になったイメージを描くんです。そうしますと、イメージで描くことは実現しますから、実際にそういう人間になった姿を描くとよいのです。(以下略)

質疑応答



うか。

A これは大変な方でありまして、やはり宇宙的なカルマを持った方であつたらうと思ひます。それ以外のことは私にはわかりません。

Q これから朝霧高原でのUFOのような、私達をまるでテストしているような感知力を試すようなことが増えてくるでしょうか。

A これはさっきの講演でお話ししたように、今後は、かなり増えてくるんじゃないかと思ひます。結局日本GAPが非常に真剣に本當の宇宙的な正道に沿つてやっていると、そうして私達の忍耐力も相當試されて、このグループならまず本物だといふふうにも認められて来たことを感じますね。ですが、そのためにおこり高ぶつてエリート意識を持つて他のグループなんか問題じゃないといふふうにも考へてはちよつと具合が悪いんですが、しかし先程申しましたように、非常に次元の低いグループと一緒に手をつないでやつていくといふようなことは混乱の起こるもので、ですから、良い意味において私達はやはり警戒しながらやつてゆく必要があると思ひますね。

Q 月は人工の天体ではないかとする説がありますが、この考へ方について先生はどのように思われますか。

A これは、以前に私が主婦の友社から出しました、「七つの謎と奇跡」という本の中で取り上げてみたんですが、ドンウィルソンというアメリカの研究家が出した本がありまして、その本の中に月に

関してかなり詳しく書いてあります。それによりますと、あの月は実は天然の月じゃなくて人工的に作り上げたものだという説と、それから、遠くにあつたやつを宇宙船が引つ張つてきたんだという説もありますが、しかし、アダムスキーの「宇宙からの訪問者」を克明に読んでみますと、スペース・ピープル側は、地球が形成された時に、月がたつた一個しか形成されなかつたといふことを言つていますね。ですからやっぱあれば人工のものじゃなくて自然に出来たもんだらうと思ひます。ただし、地球の衛星、つまり一惑星の衛星としてはとてつもなく大きなもので、ちよつと異常な衛星ですね。しかも一方の片側しか地球に見せないで回つているというのも大変異常な回り方をしている訳ですが、やっぱ自然に出来たものだというのが本當じゃないでしょうか。

Q 地球以外の太陽系の各惑星はすでに太陽系が崩壊の過程にあることを察知して、別の太陽系に移動しつつあると考へられるでしょうか。

A だいたいそういうふうにも考へていいやうですね。地球だけじゃなしに、この太陽系がすでに崩壊期に入つておると。かなりガタがいつてしまつて、人間でいへば八十才から九十才位の年齢に近づいているといふようなことでしょう。ですから地球で恐ろしい核爆発をこれ以上続けますと、それは外の天体にも非常に影響を及ぼしやすくなるんで、そこで別な惑星の方々は、地球上での核爆発を極力やらないよいうにという運動をやつてこら

質問不明

A これもわかりません。アダムスキーによりますと、人間といふべきは乳動物が住んでいるといふことですから、結局私達地球人のような人間と全く同じような人間が全宇宙のいたるところにいるだろうと思ひます。いつごろ人間が、最初何処で生まれた? これはわからないことです。永久の昔、人間が創造されて、それが広がつていつたと考へられるんですが、これはやっぱりわかりませんです。

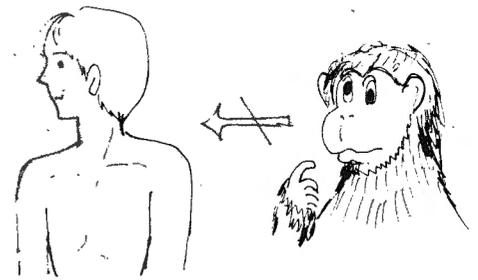
ただし何億光年かたの計り知れない遠方に、どこかに惑星があつて、そして私達と全く同じような人間が住んでいて、そこには日本と同じような国があつて、7 米沢と同じよな町があつて、そして私

れたわけですが、さすが強制する訳にはい
かないものですから、未だに核実験やっ
ているんですがね。これはもう本当に危
ない状態だと思えます。

Q ダーウィンの進化論はどれだけ妥当
性をもつものでしょうか。

A これはよく問題になるんですが、ア
ダムスキーによれば、根本的には間違っ
たものようです。つまり、猿が人間
に進化したというわけでしょうか。これ
は間違いであって猿はあくまでも猿であ
って人間はあくまでも人間であったとた
だ随分大昔、猿人というのがいて化石が
発見されたとかなんだか。…(テーブ
B面へ)：…猿同様の原始人になった時
代がいつときあるんです。その頃の化石
が発見されて、やれベキン原人とかなん
とか言われているんですが、あくま
でも人間は人間であったというのがアダ
ムスキーの言っていることなんです。た
だし、人間もある程度は進化する訳でし
て、肉体的にも精神的にも緩慢ながら進
化していることは確かです。だからそれ
は、人間が進化するんであって、猿が人
間に進化するというような意味じゃない
んです。

Q 地球では、地震、台風、龍巻などで自
然災害が発生しますが、他の惑星ではど
うですか。また、発生するとしたら、対
策をどのようにたてているんでしょうか。
A これは当然別な惑星も地球と同じよ
うな惑星ですから、やはり引力があり、
そして空気を持っている訳ですから、空
気の移動というようなものから台風もあ
れば地震もあるということで地球と全く



変わらないようですね。ただそれに対し
ては、どういう対策かといえますと、こ
れはもうテレパシーのすごい能力を持っ
ていますから、地震の発生を人間自体が
予知したりですね、あるいはまた科学が
非常に進歩していますから、それを避け
る科学的な方法もかなり講じていると思
いますね。

Q 現在、地球を周回している人工衛星
は相対的な数に上っていると思いますが、
将来的にみて地上に落下する危険はない
でしょうか。

A ありますね大いに。ですから時々燃
える物体が地球に落ちるとかなんとかよ
くあるようですがね、今地球の上空で回
っている人工衛星は六百いくらでしたか
それ位はあるはずなんです。だいたいは
大気圏内に入って来ますと燃えるんでき
ね。燃えないのでそのままストンと誰か
の頭の上に落ちて来るというようなこと

はまずないと思えます。やはりこれはか
なり危険なことでありまして、もういい
かげんに止めないと相当な災害が起こる
恐れもありますね。ですがこの間、日本
列島を横断した火の玉物体がありました
ね。テレビでもやっておりました。あれ
は翌日の新聞を見ますと、アメリカが発
表して、ソ連の人工衛星の燃えカスだっ
たと言っておりますが、私はどうもアメ
リカがどうもそういうようなことを言っ
てごまかしてしまっただけという印象を
受けています。静岡支部代表の野口さんは
あれを直接ごらんになったそうですが、
ものすごく奇麗な状態で、しかも実際は
何十キロもの長さに渡って光るものが尾
を引きながらズツと飛んでいるのが見
えたということですから、単なる人工衛
星の燃えカスのようなものがそんな状態
で見えるはずはないんです。ましては普
通の人工衛星が飛ぶんでしたら、これは
私も何度も見たことがありますが、非常
にゆっくりと等速度で飛んで行きます。
それは一個だけ光って見えるだけです。
ですからあれは私の考えでは、明らかに
UFOの大船団であって、そうしてしか
も、なぜ外国じゃなしに日本列島の上空
を飛んだかということになりますと、こ
れは非常に重大な意義を持たせて飛
んだと思うんです。そのことを詳しく今
お話する段階じゃないものですが、こ
れ以上は言えませんが、かなり私達の活
動に関連した出現であったと私はみてい
ます。いよいよの所はスペース・ピープ
ルに聞いてみないとわかりませんがね。

Q アダムスキー関係の書物には、金星
火星、木星、土星の人々がよくできてきま
すが、他の惑星の人々があまりでないの
はなぜでしょうか。

A これはたしかにアダムスキーも言っ
ていましたように自分が主にコンタクト
したのは地球に近い金星とかあるいは土
星とかいうような人が主体なので、それ
以外の惑星の人のことについてはよく知
らないんだという意味のことを言ってお
りました。が、やっぱりアダムスキーが直
接に主に会ったのは金星人、土星人ある
いは木星人くらいで、それ以外の人には
あんまり会っていないだろうと思えます。
但し昔アダムスキーが私によこしました
手紙の中で、中米のグアテマラという国
があります。そこに木星人と海王星人の
グループがあって、その人達が日本の
久保田という者を知っていると云ったと
いうふうなことを伝えて来たことがあり
ますから、やっぱり海王星のような所か
らも来ている人が多少いるんだという
ことがわかりましたんですがね。

Q 今まで、地球の歴史の中で、他の惑
星から転生してきた人々は少なからずい
たんでしょうか。

A それはもう今までの地球の歴史で偉
大な指導者として有名であった人は、持
たに精神的な指導者ですね、これはもう別
な惑星から転生してきて、そして地球
人の救済活動をやって、そしてこの生涯
を終えてまた別な惑星に帰って行くとい
う、そういうような方がたくさんおられ
たと思います。ですから、アダムスキー
が「土星旅行記」で言っておりますよう
に、土星会議の時に十二人の各惑星代表

が並んだときに、それぞれまた十二人の偉大な指導者として知られた人であったという意味のことが書いてありました。すね。早い話が、旧約聖書にでてくる偉大な人が、アブラハムとか、あるいはヨシヤとかいろいろな人がでてきますが、そういう人達もやはり別な惑星から転生してきて、そして地球の救済活動をやつて、また向こうへ帰つたというような人だろつと思ひます。イエスの十二弟子なんかもそうでしょうね。だからかなりの人数になるんじゃないでしょうか。GAP会員の中にもやはり別な惑星から転生して来られた方が私は少なからずいらつしやると思つてゐます。

Q 今の質問に付け加えてですが、科学者、哲学者などはどうでしょうか。

A やっぱり偉大な科学者の中には別な惑星から転生してきて、そして大発見をやつて地球人を救つたという人が少なからずあると思ひます。早い話がトーマスエジソンですね、これなんか最たる人でしょう。それから、ニコラ・テスラという有名な科学者がいました、この方は前生が金星人だつたと言われてます。あるいはアインシュタインとかも別な惑星から一時来た人なんでしょうが、ご本人方はそんなことはちよつと気付かなかつたかも知れませんね。地球へ来れば波動が違いますから、過去生のことはずべて忘れてしまふんです。ですから、地球という世界は非常に人間を眠らせてしまふとも言えますね。

Q 二千年前エルサレムでイエスは処刑されました。イエスはどの人なら逃れる

ことも出来たと思つたのですが、なぜ処刑される必要があつたのでしょうか。その宇宙的な意義をお教え下さい。

A これは大変重要な深刻な問題でしてキリスト教神学の中でも随分議論の的になつてゐるんです。そもそもイエスが処刑される前夜、最後の晩餐をやりましたね。あれはシオン山という所で最後の晩餐をやつたあたりに、本物の部屋じゃないですが、たぶんこんな部屋だつたらうというので、十一世紀頃から十二世紀頃建てられた建物が今でも残つています。それは私もも行つて見たんですが、そこで最後の晩餐をやりました。そうして、その晩餐をやつた時に、イエスがこの中に一人裏切り者が出てくると言ひましたね。そこで十二人の弟子が皆大變驚いて一体それは誰ですかと言つて詰めて



寄つていろいろ聞いたところ、イエスがこれだと言つた訳です。それはユダという人だつた訳ですね。で、そのあたりの記述からして実はあの新訳聖書はちよつとおかしくないんです。なぜかと言ひますと、イエスほしの方が裏切り者が出るということを受知の上で自分の十二弟子を選ぶはずはないんです。あれはだいたい八十人から推定百人ぐらゐの常時一緒にぞろぞろついて歩く弟子の人があつたはずなんです。その中でイエスが、特別によりわけたのが十二人です。で、十二人の弟子を集めて最後の晩餐をやつた訳ですが、この中に一人裏切り者が出るぞというよくなことを言う訳がないですね。それは裏切られる人を傷付けることですからね。そこで、そのユダはあの時晩餐会からでていったということになってゐます。そのあたりの記述からしてそもそもおかしいんです。

そうして今度イエスはその後ゲッセマネの庭園へ祈りに行きます。祈りに行く時は今は鶏鳴教会という教会になつてますが、あそこは大祭司の屋敷のあつた所で、その横にかなり長い石段がありまして、そこを歩いて降りて、それからケデロンの谷というのを渡つて向う側のオリブ山の麓のゲッセマネへ行つた訳です。行つてからイエスは一晚脂汗を流して祈つたということになってゐます。それはつまり逮捕されてよいものか、あるいは逮捕されるということは死ぬるということですから、死んでよいものか、このまま逃げてよいものかどつちにしよつかと思つて随分脂汗を流して祈つたというこ

とになっておりました、そのイエスがざばりついで祈つた岩というのが今でも残つてゐます。これは苦悶の岩と言われてゐるもので、かなり大きな岩です。その岩を囲むようにして教会が今建てられてゐます。苦悶の教会と言ひますが、万国民の教会とも言ひます。

そうしてそこで結局イエスは死ぬることを決めたのです。すると夜明け方頃ですが、ユダが先導して、大勢の大祭司カヤパの手下たちを連れてやつて来る訳です。棒切れやらあるいはひもやら何やら持つて来んでしようね。そこでイエスは逮捕される時に、「おまえたちは一体何のために私を逮捕するのか」と言つてゐます。イエスが逮捕される時に、私は堂々と人生をやつてきたのに、なんであなたがたは私を逮捕するのかと言つて逆に聞き直つてゐます。これは新訳を読むとよくわかるんです。夜中にです、夜中にもう自分は死ぬることを決めたというイエスがユダを先頭にしてやつて来た連中に対して頭からどなりつけて、何しに来たんだと言つて逆に聞き直るといふのはおかしいでしょう。あのあたりの記述は完全にゆがめられてゐますよ。だから結局イエスは逃げようとしたんじゃない、逃げられなかつたんです、たぶん……逃げられないでそのまま捕まへられたんだらうと思ひますね。その所のハッキリしたことが新訳をどんなに読んで研究してもわからないんです。かなり歪められた所がありますからね。

だいいちあのユダが裏切り者ということになつてゐますが、これは私がアメリ

大通り

可弘原笠

聖意

先日、「聖意」という映画をテレビで見ました。ローマ帝国の護民官が、イエスの教えに打たれ布教の道に入り、最後はローマ皇帝に捕われ、処刑場へその恋人と歩みゆくシーンで幕を閉じます。ローマ皇帝が、土下座してイエスをののしれは命を助けてやると言うのに対して、断固として持論を曲げなかつた主人公と、愛し抜き信じ抜き美しき恋人が主人公を弁護し、運命を共にするところの毅然たる態度が印象的でした。

今とは、比較にならない程制約の多かつた時代の「物語」ではありますが、大勢を占める考えとは異なる道を行くときの生き様とすると、現実と重なり合ってしまういます。イエスの時代から二千年を数える現在も、今地球は「心」の領域にあるからです。そのくせ、幾多の情報が発交うものから、その中から宇宙的なものを見出すのは至難の技です。まして、GAPは情報の提供者です。超特選の英知を伝える活動者です。雑多な情報と区別してもらうのに苦慮するのは当然かも知れません。と云って、我々が特権的な事をしていてという妙な自意識を持つことを提唱しているわけではありません。大宇宙から見れば、ごく普通のことをしているに過ぎませんが、地球が余りに遅れているだけのことです。

どう考えても宇宙は整然とした法則のもとに運行しています。法則を原点に活動することは、「聖意」を遂行することだ

と思えます。

恐怖を忘れる

アダムスキー氏は、我々に偉大な教えを残しました。詳細は久保田先生が毎月解説されています。繰り返しアダムスキー氏の著書を研究するとあることに気付きます。読者に勇気を与えこそすれ、恐怖心をおおる言葉は一つも無いということです。誰も抱きかちな恐怖心をうまく操りながら賛同者を増やす、という低劣な意図はどこにもありません。

当然といえば当然ですが、大事なことです。地球社会は、恐怖のバランスで成り立っているからです。

宇宙の人間への第一歩は、恐怖心がいかに自分を支配しているかに気付くことにあります。想念観察にてそのことに気付いたら、今度は宇宙の意識に気付くように仕向けます。

正直なところ私もそのレッスンの過程にあります。心は恐怖なるものに強烈に磁化されています。それでしばしば次のように自分にいきかれます。

「いまこの瞬間目にし、耳にするもの、またそれ以外の全てのものは宇宙の意識が内在し、大宇宙の創造パワーによって生かされている。

宇宙の意識がもたらすのは、英知であり力であり、勇気であり絶大な信念である。意識が私の実体であるから、わたしの英知と力と、勇気と、そして絶大な信念そのものである。」

これを静かに反覆し、大いなる力がみ

なざるフイーリングを起こします。

自分のマインドを意識に向け続けると恐怖心を忘れてしまいます。意識には恐怖などないからです。

意志力

意識に心を従わせていくと現象の世界も大いに変わる、とよく聞きます。言い換えれば、宇宙の生き方をすれば、運命環境が好転する、ということなのです。これは、絶対間違いないと思います。即座にそうなる人もいるでしょうし、なかなか結果の現れない場合もあるでしょう。私は、両方の経験がありますが、時間の長短を気にせず、宇宙的想念を持ち続ければ必ず変化が起こります。誰だから起こり、彼だから起こらないということはないのです。厳然たる宇宙の法則だからです。

なぜ、地球に生まれたのか？ それはどのような世界にあつても崩れざらない宇宙の正体を確立するためです。なかなか結果が現れなくて意気消沈することもあるでしょう。しかし、気を落とすことはありません。我々の経路はまだまだ細いのです。ますます信念を強めて実践に励み続けるならば、必ず変化すると思えます。

その時、我々は意識の大通りとなるのです。



送念に応えた 飛行体

遠藤 茂

ある衝動

私は頸髄損傷のため病院に入院中で、車イスの生活をしている訳ですが、この病院で二年位前に知り合った一人の男性の事を紹介しようと思えます。

ある日私がPT（運動療法）室で訓練をしながら広い室内を何気なく見渡していますと、見たことのない人が起立板（腕が麻痺している人等が使うリハビリ用具）に立っているのが目に入りました。その時、どういふ訳かこの人に近づいて話したいという衝動にかられたので、さっそく近寄って話しかけてみました。聞いてみますと彼は、二年半位前に、それまでは何ともない全くの健康体だったのが急におかしくなり、全身が麻痺し、筋無力症のような状態になってしまったのだそうです。それで最初東京の昭和医大附属病院に半年程いて、その後郡山のこの病院にリハビリのため来たとの事でした。私は自分の体の事や、その他の事を話しながらそれとなくアダムスキーの名前を出してみました。すると、その名前は知っている、UFOの目撃体験もあるという返事が返ってきました。私は非常に嬉しくなり同時に思わず心の中でつぶやきました、ヤッター！と。そしてアダムスキー氏の体験やその哲学の事を少し話しますと非常な関心を示し是非その書物を読みたいと言うので、とりあえずア全集第一巻を後で届けるとの約束をしてその場を離れました。



アダムスキーの本を読んで

翌日、さっそく第一巻を届け、その時全身が麻痺しているのでもうしてページをめくるのかと聞いたら、ペットを起してテーブルを口の所まで持って行き舌と唇を使ってめくるとのことでした。ちなみに私は腕はある程度動きますが手や指は全く駄目なのでペットで横になっている時は書見器に本を取り付けワリバシを口にくわえてそれでページをめくったものですが、今はそれを止めて、もっぱら車イスに乗っている時やペットに起き上っている時に手の甲を使って読んでいます。

話がそれましたが、そういう訳で二、

三日後に様子を見に行きますとすでにその本は読み終えており、すごい内容だと興奮していました。そして自分も是非この全集がほしいと言うので、さっそく文久書林に注文しそれが届くまで私の物を貸してあげましたが、それもアツという間に読破し、自分が求めていたものはこれなんだ！本当に驚愕的な内容だがおかしなところは何も無い、全く考えられる事だ、とにかく「スゴイ」と興奮のしっぱなしでした。

彼はKさんと云い、三十三才になられる方ですが、それからというものの暇さえあれば彼の所へ行き、アダムスキー問題やその哲学について話し合うようになりやがてKさんも次第に理解が深まり、自分の過去の生活や、今なぜこういう状態になっているのか等、カルミツクな事もア氏の哲学に関連させて深く考えるようになりました。

そしてGAPのことを話しますと、この様な重要きわまりない問題を二十年以上も前から積極的かつ具体的に研究及び実践をしていたグループがあったのかとあらためて驚いていました。

不思議なめぐりあわせで実現

ここで、おもしろい事があったので書いてみます。私は以前から例の浅井ゲルマニウムを一度飲んでみたいと常々思っていました。彼とのお母さんの前でその話をしますと、何とKさんの家は世田谷の成城でゲルマニウムクリニックの近くだと言うではありませんか。しかも

そのお母さんはその事を人から聞いて知っていて、『それじゃ私がそのうち行ってみましょう』と言って下さり、しかも数週間後にそれを持って来てくださったのです。もちろんあの様な所は病院ですから本人が行かないと普通は駄目なんです。息子さんのお話を話して事情をわかってもらったそうです。

私はありがたくそれを頂いて飲み、かねてからの望みが実現した訳です。私体がこういう状態ですから東京へ行って診察を受けるなんてことはとても考えられないことだったので、めぐりあわせの不思議さを考えられずにはいられませんでした。

Kさんの目撃体験

話は変わりますが、Kさんの目撃体験をここで書いてみます。

私Q、『それは、どのような目撃体験のですか』

彼K、『あれは私が二十才位の時ですが、夜七時頃、自宅の窓の外で何か光ったので急いで窓から見てみますと、黒い物体がゆっくり飛んでいるのが見えました。見た瞬間、何が何だかわかりませんでした。地球の航空機や飛行船等でないことはすぐ分かりました。光はその物体の前と後ろから出ていて交互に点滅しており、全く音は聞こえませんでした。光の色は青白い色だったと思います。大きさは見かけ上三十cm位だったと思いますが、かなり大きな物に見えました。暗くて形はよくわかりませんでした。楕円形の

楕円形の

様な感じでした。距離は約五百m位で、しかもかなりの低空でした。見たのは私と母と弟、それに妹の四人です。その時の感じは、とにかく驚いたのと、それと同時に、ああこれがUFOなんだなど実感したことです。この時、アダムスキーの名はまだ知りませんでした。』

私Q、『四人で目撃したというのがいいですね。その他に何かありますか？』
Kさん、『そうですね、今度は私が東京の病院に入院して二、三ヶ月後のことです。病院で何気なく空を見ていますと、白い球状の物が五機、V字形の編隊を組んでものすごいスピードで飛んで行くのを見ました。かなり高空だったと思います。私と、とにかく地球の航空機の段ではなく、私の視界からアツという間に消えてしまいました。この時はA氏の名を、同乗記を立ち読みして知っていたので、その名を思い出しながら、ああ、やはり本当に来ているんだなと感じました。』

以上、二件ほどKさんの目撃談を紹介しました。まあ、ここまででは良かったのですが、実は私達が色々話し合ってきた盛りに盛りがあって来た頃、Kさんの容態が急に悪くなり、HCUと云う特殊な病棟に移されてしまいました。彼の様な病気に多く起こりがちな呼吸困難に陥ってしまつたのです。そこで当然、気管に穴を空け人工呼吸器を取り付けることになった訳ですが、今度は具合の悪いことに声が出なくなつてしまつたのです。

彼の状態が落ち着くまで、勿論私は会いに行けなかつた訳ですが、ア哲学をある程度理解してはいたはずだから、それを

応用してガンバツていてくれと私は思念していました。

テレパシーの練習をしながら 励ましあう

やがて、面会許可が下りて会いに行きますと、ひどく落ち込んでいて、私は掛ける言葉がありませんでした。しかもKさんは声が出ず、従つて伝えたいことも伝えられず、私も口の動きだけでは何を言いたいのかわからず、一時とまどつてしまいました。しかし、何とかしなければとじつくり口の動きを見ているうちに、これはテレパシーの練習にもなると思い、その事を彼に伝えました。

つまり、Kさんが話をしながら同時にそのイメージを描いて、私は口の動きを見ながら、言葉が読み取れない場合にそのイメージをキャッチしようという訳です。

彼は、それはとても良い方法だと笑つてうなずき、さっそく始めることにしました。勿論、始めはなかなかうまくいかず、Kさんは同じ事を何度も繰り返すうちに疲れてしまい、休むこともしばしばでした。やはり疲れは送受信を妨害し、うまく行かないので、とにかくリラックスしようという訳で、私が一方的におもしろい話をして終わることもよくありました。

しかし呼吸器を付けてこそいますが状態が安定してきて笑顔が多くなり、私も気楽に行けるようになってからはかなり話が進む様になり、彼がイメージを描

き、私が口の動きを見ながら、わからぬ時は目をつむり心にイメージや言葉のフイーリングが浮かぶのを気楽に待つというので私達の会話の常識になつていた様です、いつのまにか……。

そして二人共こんな体だが、しかし周囲の人達のほとんどが夢想だにしない現代科学の百年以上も先を行くアダムスキー哲学や科学を研究し、しかも同時にテレパシー練習までやつている自分達はタインタモンなんだから、何もコソコソする必要はない、堂々とやつて行こうなどと自分で自分達をほけまじ合つたものです。

イメージ法で病室が変わる

しかしKさんの居る場所は窓もない特殊な病棟なので、長い間には気分が暗く落ち込むこともよくあつた様です。そこで、こういう時こそア哲学を実践するチャンスだからイメージ法でも応用してみたらどうかと私はすすめておきました。その成果かどうかはわかりませんが、やがて彼は病棟が変わり、病室も二、三度変わり、去年(六十年)の十一月にその棟の最上層の二人部屋窓際という最高のベットに移ることになったのです。

送念に応えた飛行体

このへんから話が盛り上がつて来る訳ですが、こんな見聞らしのいい場所に来たんだから、ひとつブラザーズの方々に送念してみたらどうかと私が勧めてみま

したら、Kさんも是非やってみたいと言
い、さっそくその夜から送念を始めまし
た。

最初の一週間はまったく何事もなかつ
たようですが、やがて素晴らしい時間が
おとずれました。反応が始まったのです。

ここで十一月に初めて反応があつてか
ら今年（六十一年）の一月頃までの出来
事を紹介してみましょう。「それはどの
ようなものだったのですか」と私の質
問に対してKさんは次の様に述べていま
す。

Kさん「まず最初に送念に依って出現し
たのは消灯後の夜九時過ぎ頃ですが、ス
カウトシップのイメージを描きながら空
間の一点を見つめていますと、その場所
に突然オレンジ色の光体が現れ、その位
置にしばらく停止していました。私は驚
くと同時にいじめぬ感動に襲われ、涙
が後から後から溢れ出て来るのをどうす
ることも出来ませんでした。様々な想念
が去来し、やがてこの宇宙空間や太陽系
の実態、および近隣の惑星群から確実に
スペース・ビープルが援助に来て下さつ
ている事を身をもって確信しました。光
体は十分位その位置にいて、その後少し
水平に移動し又停止しやがて突然消えて
しまいました。私はその時、確かに自分
とプラザーズと宇宙とが一体である事を
腹の底から感じ、もう自分が何があつて
も絶対だいたいようぶなんだというような
フィーリングに包まれました。

その数日後、今度は日中窓の外を見て
いると白い球体があるスピードで
飛んで行くのを目撃しました。そして、

それから十日位の間に、夜間二度程いず
れも九時過ぎですが、オレンジ色の飛行
体が現れ十分から二十分停止し、やがて
それはゆっくり飛び去って見えなくなり
ました。この頃から心は高揚して来て、
それが持続する様になって来ました。

ここまでは十一月の出来事ですが、次
に十二月以降の目撃についてお話ししま
すと、まず驚いたのは、夜、送念はせず
ボンヤリ外を見ていると、突然上空か
らやはりオレンジ色の物体が二、三秒間
隔で二機続けて急降下してきた事です。

その後、又数日してさらに驚いたのは
消灯後、星を見ようと外を見ますと、ま
るで私が見つけるのを待っていたかの様
に、すでにいつもの飛行物体は山の少し
上に出現していた事です。そしてそのオ
レンジ色の物体は時々かすかに揺れなが
ら、何と数時間そこに居続けたのです。
まるで私を見守っているかの様です。

その間、私は特別何も考えず、ただジツ
とそれを見ていましたが、やがて今度は
逆に私が何者かに見られているという感
じが起こって来ました。しかし、それは
のそかれているというような変な感じで
はなく、暖かな何かを感じさせるもので
した。一月にも一度出現がありました
その後、その感じはずうとと現在まで続
いており、目をつぶるとスカウトシップ
のイメージが自然に浮かんで来るように
なっています。

私はこの体験を通じて、過去三十年の
生活で得た物より、はるかに多くの貴重
な物を得ました。プラザーズの方々には
いくら感謝しても感謝しきれません。本

当にありがとうございました。」

以上がKさんの述べた体験の概要です
が、細かい個所は省略しました。このK
さんの体験を通じて私自身も多くを学ぶ
ことが出来、彼とプラザーズ、及び大宇
宙には本当に感謝しています。大変どう
もありがとうございます。

最近になって体に何か変化ありません

支部大会を前に 円盤目撃

柴田 文子

山形・仙台合同支部大会を目前に控え
た昨年の秋の出来事です。日曜日だった
ので家族全員で稲の刈入れをされていて、
ちょうど仕事も終わった頃、夕露があた
りを包み込み空には星が光り始めていま
した。主人と二人で美しい星空を眺めな
がら他の惑星の方々へと思をめぐらして
いました。南の空には木星が光っていま
したのでしばらく木星を見つめていまし
た。

すると木星のすぐ斜め下に木星よりも
や大きめのオレンジ色の光体がパツと現
れ停留していました。あれは一体何だろ
うと思いつながらあ然と見入っていました
が全然動く気配がありません。四、五分
位たったでしょうか。「あれは円盤だ！」
と心の中で思った瞬間、その光体は消え
てしまいました。

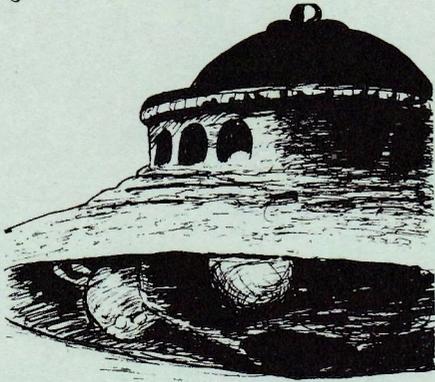
その円盤を目撃する二、三週間位前か

かと聞いた所、特に変わった事はないと
のことでしたが、健康体になってGAP
活動に協力しているイメージはいつも描
いているとのことでした。

スペース・ビープルの方々のスケール
の大きな、そしてまた病室の小さな窓か
らの心あたたまる祝福に感謝してこの手
記を終えたいと思います。

ら、「山形・仙台合同支部大会がすばら
しい大会になりますように」とプラザ
ーズの方々に想念を送り続けていたので、
その想念に答えてくれたのかもしれませ
ん。





UFO

写真展

仙台市 藤崎デパート

いよいよ東北でもUFO写真展が行われます。会場は仙台市でも最大の目抜き通り一番町商店街と中央通りに面した仙台有数のデパート、藤崎デパートリビング館六階ホールで六月二十七日(金)と七月二日(水)までの日程でUFOパネルの展示等を行い、広く一般の方々にUFO問題を知らせてゆきます。

藤崎デパート

☎0222(6)5111

山形支部月例研究会

これからの地球社会は宇宙時代を迎えアダムスキーの驚異的な体験が次々と実証されてこようとするきざしが見えはじめています。GAP山形支部では、いづれ一般化するであろう宇宙哲学を、久保田先生の御指導をいただくながら、まじめに、なごやかに研究、実践を行なっています。皆様の参加をお待ちしています。

毎月第一日曜日午後一時〜五時

会場 山形福祉文化センター

☎0236(42)5181

プログラム

東京本部月例会における久保田先生による「生命の科学」解説講義テープ公開。

近況報告、座談会、研究発表。

テレパシー練習。

会費 200円

持参品 「生命の科学」(文久書林)筆記用具

※六月の月例会は第二日曜日の八日に変更します。

※皆様のアイデアをテレパシー練習にとりいれたいと考えていますので、身近な所からでも何でもけっこうです、例えばかんジュースの製造年月日を当てるなどいろいろ持ちよって下さい。

編集後記

★時間の過ぎるのは早いものです。昨年行われた山形・仙台合同支部大会がこの間のことでしたがもう半年たつています。山形は一ヶ月前には一面の銀世界、雪が生活の一部になっていきましたが、今はどうでしょう。うそのように春の日射しがあたりを活気付けています。回りはどんどん変化して新しい形をあらわしています。

山形支部報も発行が遅れませんが、皆様に新しくお届けすることができてうれしく思っています。今後もマイペースで支部報発行を行なってまいりますのでよろしくお願いたします。

★久保田先生の講演は何度聞いても素晴らしい宇宙的内容に満ちています。このたびのは質疑応答も載せましたがいかがでしょうか。

★仙台でのUFO写真展は山形支部からも応援をして、大成功にしていこうと考えております。なにしろ、一般の人に対して直接知らせていくことは初めてのことです。社会にはいろいろな考えの人がいますが、そうした人に知らせていく上でその人に合わせた対応など、それなりの技術なども必要になってくるでしょう。GAPで学んだことを社会に働きかけていくことによって、GAP活動がどんなに重要なことかこれまでより認識を深くし、多くの理解を身につけると思っています。

さて、写真展がどんな波紋となって社会に広がって行くのでしょうか？これ

まで松山、東京、静岡、福岡の各地でUFO写真展が開催されましたが、いづれも大盛況で、予想をはるかに上回る入場者があったとのことでした。人々は、知らず知らずのうちにスペース・ブラザーを感じているのかもれませんし、関心はその入場者数が示めてしています。

★UFO写真展用のパネルは静岡支部の野口代表に作っていただくことになりました。このパネルは、仙台に常時一セット置くことにして、これで東北や北海道などでUFO写真展が行なわれる場合にこれを使用するように便宜がはかられています。

★各地で支部大会が開かれます。松山支部大会はこれまでにない多数の参加者を得て大盛況に終了しました。四月二十九日には新潟支部大会、五月三日には静岡支部大会が行なわれます。どちらも素晴らしい宇宙のフィーリング、楽しい雰囲気にも包まれた大会となることでしょう。

(S)

日本GAP山形支部報

ユニバーサルメッセージ24号

編集発行人 清水 正

発行所 日本GAP山形支部

〒992山形県米沢市中田町

901-2

県営中田アパート141

☎0238(37)5635

1986年4月20日発行